**◎授業の様子**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 児童の様子 | 指導上の留意点（･）支援（○）評価（◇） |
| １ 前時に作った同一題「花火」の鑑賞をする。   |  | | --- | | 課題①  導入に時間を掛けすぎない。 |   児童の作品例  F:\DCIM\104_FUJI\DSC04754.JPG  ２ 自分が選んだ題材で詩を作る。  \\192.168.2.60\共有\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03769.JPG  Ｃ：「ロケットみたい･･･」  \\192.168.2.60\共有\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03767.JPG  Ｃ：「こんなに長いぞ～」  3　作った詩を発表し、鑑賞する。  　（１）グループ発表  \\192.168.2.60\共有\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03777.JPG  \\192.168.2.60\共有\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03782.JPG  （２）全体発表   |  | | --- | | 課題③  良い表現を取り上げて、発表を深める。 | | X:\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03745.JPG  X:\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03741.JPG  X:\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03762.JPG  X:\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03758.JPG  E:\DCIM\104_FUJI\DSC04748.JPG  「ヒントカード」  \\192.168.2.60\共有\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03771.JPG  \\192.168.2.60\共有\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03776.JPG  Ｔ：みかんはどんな形かな。  Ｃ：丸っていうのかな？球みたい。  F:\DCIM\104_FUJI\DSC04749.JPG  　　　　「発表の進め方」 | ・前時に児童が作成した同一題の作品（「花火」）を一覧にまとめて、掲示しておく。また、児童にもプリントにして配布しておく。  ・一覧を見ながら、友だちの作品の良い表現を発表させる。  ○友だちと積極的に意見を交換させることで、より多くの語句や表現を見つけ出せることに気づかせる。  ○黒板に「言葉集めのヒント」を掲示しておき、必要に応じて参考にできるようにする。  　１，大きさ、色、形  　２，におい、触感  　３，見た様子、見た感じ  　４，自分が感じた言葉で  　５，誰の立場で  　６，何かに置き換えて  ・五感全てを働かせて書くように伝える。  　目・鼻・口・手・耳  ○言葉を選び出すことが難しい児童には、言葉集めの「ヒントカード」をもとに、色や形に注目し、思い付いた言葉で表現できるよう指導する。   |  | | --- | | 課題②  児童が持参したものだけでなく、身近なもので自分が書きたい題で詩を書かせる。 |   ◇五感をよく働かせ、自分の思いや、表現のおもしろさを味わって詩を書いている。（ワークシート、観察）  ◇自分の思いを素直に表現し、表現のおもしろさを味わって詩を書くことができる。（ワークシート、観察）  ・自分が書いた詩と友だちが書いた詩を比べ、違いや良さについて感想を交流させる。  ・あらかじめ、グループで進行係を決めておく。  ○進行係は「発表の仕方」のカードをもとに、自分から時計回りで自分の作った詩を発表させる。  ・発表を聞いている児童は、友だちの詩の中で良かった表現をメモを取りながら聞く。  ◇友だちの詩について具体的に内容や表現の工夫を見つけ、自分のものの見方を深め、表現の参考にしている。（ワークシート、観察）  ・代表の児童に画用紙に詩を書かせておく。  ○友だちの詩が何をたとえて表現しているのか、題名を考えさせたり、表現のよさを鑑賞させたりする。 |
| 児童の作品 | Ｔ：「真っ赤な色に輝くルビー」  さて、何のくだものかな？ | \\192.168.2.60\共有\共有情報\05　各学年\４年生\２３年度\写真\研究授業写真\DSC03784.JPG |

**○指導講評　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導者　　深谷市教育委員会指導主事　　嘉藤　央　先生**

・教師は、学年以上の力を国語の授業に求めてしまいがちである。

　・表現力＝心の中のもやもやを何とかする力。今日の授業は、まさに表現力をみがく授業だった。

　・PISA型読解力が15位から8位になったことについて、一喜一憂してはいけない。読解力の低い子は、依然多い。（→経済的に底辺の家庭とリンクしている。）

　・語彙不足の児童にとっては、語彙を増やす手立てが必要だった。語彙不足を補う取り組みの例…言葉カード

　・交流活動を意図的に設けていることは、とても大切。授業の中で発表の仕方、よい聞き方例を示すこと→見える化につながる。

　・今日の作詩の条件　①具体物　　②隠喩　　③ワークシート

　・授業の充実の3本柱　①学習過程の明確化　②意欲の喚起　③評価の工夫

　・本単元は、国語を味わう、読む楽しさ　→　書く楽しさ

　・言語活動が　各領域の中に入った。